

# 内閣 国立白門会ニュース

第 20 号  
国立市富士見台1-1-201  
村田 亘 75-2020  
印刷

真美巧芸 37-2536

平成二年を迎えて……

## 一層の飛躍を期す

中央大学学員会国立支部長

村田 亘



明けましておめでとうござ  
います。

学員の皆様には、お健やか  
に新年をお迎えになられたこ  
ととお慶び申し上げます。

国立支部は昭和五十三年に  
国立白門会として出発し、昭  
和五十五年の白門会ニュース

に私が「国立白門会ひとりあ  
る記」を書いた時代を経て、  
昭和五十七年に支部に昇格、  
今では全国の地域支部の中で  
最も活動している支部の一つ  
に数えられているのは、偏に  
役員諸氏の努力と学員の皆さ  
んの御協力の賜と深く感謝し  
ております。

中央大学は現在、社会で活  
躍している卒業生、三十六万  
人を世に送り出しております。  
大学を支えているのは卒業  
生即ち学員であります。

国立支部は学員相互の親睦  
をはかり、母校の興隆と地域  
社会の発展に寄与することを  
目的としております。

当支部は年会費並に広報、  
組織、事業及び厚生の四部組  
織により運営し、目的達成の  
ため、次の事業と行事を行  
います。

白門会ニュースは、より充  
実したものとし、年二回、学  
員名簿は三年に一度発行しま  
す。

行事としては、新年会、春  
秋二回の親睦旅行、サクラフ  
ェスティバルにおける出品、  
「市民まつり」には積極的に

参加し、法律、税務の無料相  
談と学員供出品によるバザー、  
ゴルフのコンペ、囲碁大会な  
ど行います。

イベントを利用した法律、  
税務無料相談は全国支部の中  
に例がなく、国立市民及び周  
辺都市住民の好評を博してお  
ります。

年に一度の国立支部定時総  
会は平成二年度の活動方針案  
と、これに伴う予算案とを呈  
示して、皆さんに問う大事な  
行事なので、より多くの学員  
に出席して頂きたいと思いま  
す。

以上が、平成二年に私が実  
行したいと思う事業と行事で  
あります。

国立支部は国立白門会とし  
て第一歩を踏出して以来十一  
年、目的達成のため成果を挙  
げ、学員会本部と国立市にお  
いて、一応の評価を得るに至  
りました。

「ローマは一日にして成ら  
ず」という言葉がありますが、  
長年に亘り、役員の方々の撓  
まない努力が、今日の国立支  
部を築いて参りました。

しかし役員の中に若い学員  
が少いのは残念で、国立支部  
が、より発展するために、平  
成二年には、若い層の参加を  
得て、新鮮な発想のもとに役  
員会の活性化を計りたいと思  
います。

学員諸氏のご協力をお願い  
致します。

### 平成元年度

### 定時総会報告

第十二回定時総会は、五月  
二十一日(日)午後四時より国  
立商協ビル2階で、澤島常任  
理事、阿部事務局長をはじめ  
三多摩地区各支部長の方々の  
ご列席を得て、井上副支部長  
の開会の挨拶で開催されまし  
た。

はじめに、村田支部長より  
発足して十一年、会費制の支  
部として歩んでこられたこと  
と、併せて、中央大学百周年  
募金も目標を突破したことに  
謝辞を述べられた。

また、来賓の皆様からは、  
母校の近況や支部の状況を交  
えたご祝辞をいただきました。  
続いて議事に移り、事業報  
告決算報告、平成元年度の事  
業計画(案)、予算(案)が承認  
されたあと、白門会をより多  
く市民に理解をしてもらうた



平成元年度 中央大学学員会 国立支部定時総会 平成元年5月21日

め、学員以外で支部の主旨に  
賛同して協力していただける  
方を準会員とする一部規約改  
正の議案が承認されました。  
(平成元年度名簿に記載)  
また、役員改選では、村田  
支部長が留任され、他役員も  
殆んど再任された。  
総会終了後、引続いて、懇  
親会に移り、昔話からトレン  
ディな話題に花が咲き、恒例  
の校歌斉唱のうちに、午後八  
時散会しました。

#### 〈役員顔ぶれ〉

支部長 村田 亘

副支部長 井上定男、荒木繁  
幸、能味寿哉、山  
崎武

幹事長 風間俊範  
副幹事長 新倉良平、小林治  
理事 金子泰久、伊藤陽  
司、玉利武人、平  
本聖子

(厚生部) 二宮 巍、関 喜  
一、高橋雅幸、

(事業部) 風間 健、皆川友  
彦、久保田利雄、

(組織部) 山口康雄  
小島泰義、大串

(相談役) 源太郎、川村俊介  
福谷 実、丸本

大、山村鶴音、井  
上正博

会計 堀田 勲  
会計監査 宋戸勇之

手本

# 丹波哲郎氏―熱弁ふるう

## 中央大学文化講演会

中央大学学員会、同三多摩地区連絡協議会、同国立支部主催の中央大学文化講演会が、十月十三日にたち市民芸術小ホールに於いて開催されました。

講師は、学員であり、俳優の、いや霊界研究者としても名を轟かしている丹波哲郎氏と、同じく若き学員で、三遊亭円楽師門下の落語家、三遊亭竜楽氏をお呼びしました。

数ヶ月前から、この日のために、準備を重ねていたとは云うものの、いざその日の蓋を開けてみるまでは、心配の材料が多々ありました。

午後6時、開場を待ちきれなかったかのように、聴衆の方々が参集し、開演の6時30分には、この講演会に期待される方で満席となり、会場は熱気に満ちあふれました。



司会は、現在、FM東京等でご活躍のフリーアナウンサー秋岡のみさんにお願ひし、会場の雰囲気盛り上げていただきました。勿論、秋岡さんも本学の学員であります。

講師、司会とも学員で固められたことは、わが中央大学の興隆を示す一頁であります。

先づ、竜楽氏の軽妙洒脱な小噺で会場を笑いに包み座をなごやかにしたのち、丹波哲郎氏が演壇に立たれました。

多忙な丹波氏は、富士山の方での口の帰りに来られたとのことで、気軽な服装でしたので、聴衆の方々にとっては、楽な気持ちで話に溶け込むことが出来たと思います。

当日は、十三日の金曜日、仏滅、三りんぼうと重なり、霊界の講演には、誠にふさわしい日でありました。

丹波氏は、一時間余りの時間では、話しきれないと断りながら、日本の霊界研究は、西洋と比べて遅れていることを指摘しながら、種々この世の不思議な事例を挙げて熱弁を振るわれました。

講演が終わると拍手と花束の贈呈をうけられ、終始笑顔



懇親会場にて・左より  
竜楽氏・丹波氏・秋岡さん

絶やさず降壇されました。

講演会終了後、学員による懇親パーティーが別室で催され、多摩地区各支部の方々と、丹波氏、竜楽氏、秋岡さんを囲み、記念撮影をした後、学員各位が旧交をあたためたい、話が尽きぬままお開きとなりました。

この会に参加したOBの方で、このように立派な講演会を開催したことは、学員相互の間では、話しきれないと断りながら、日本の霊界研究は、西洋と比べて遅れていることを指摘しながら、種々この世の不思議な事例を挙げて熱弁を振るわれました。

くにたち

### 市民まつり

十一月五日(日) 恒例の「秋の市民まつり」が、大学通りで行なわれ、我らが国立白門会も、「無料、法律、税務相談」とバザーの出店で参加しました。朝七時から準備のため、村田会長をはじめ山崎氏、丸本氏、金子氏、堀田氏、風間氏、小林氏、新倉氏の各役員に、元剣道部の青木氏も参加され、テント張りもスムーズで、近くに出店していた婦人団体から、白門会は上品で力強い男手が多いと評判でした。



「無料、法律、税務相談」は、会員の石川正明氏、溝口敬人氏両弁護士、宍戸勇之氏、高橋雅幸氏両税理士に相談員として参加していただきました。

た。あまり宣伝をしなかったにもかかわらず訪れた方々の相談に、熱心に応じておられました。

バザーには、山崎夫人、堀田夫人も応援に駆けつけて下さり、安くて、よい品揃いと販売スタッフの気合いで、午前中には完売し、皆の笑顔を誘いました。

同門の諸氏と共に、楽しく活動に参加できたことで、秋晴れの一日をさわやかに過しました。

昨年の市民まつりは、諸般の事情で中止になったので、今年は、好天にも恵まれ、また例年通りに、天中市、一橋祭も同時開催されていきましたので、老若男女が、大学通りに集い、十数万人の人出で大賑わいの盛況でした。

バザーに出品されご協賛下さいました学員の皆様、お手伝い下さいました方々、本当にありがとうございました。



**新年会のお知らせ**

日時 平成二年一月二十日(日) 午後五時

場所 信濃路 国立市西二丁目 (音高バス停前)

電話 72-1094 三番までご参加下さい。

# 活躍する中大学生

## 全日本大学女子駅伝

### 第7回 女子駅伝中大初V

#### 大会新1時間59分57秒

全日本大学女子駅伝は十一月二十六日(日)、大阪市長居陸上競技場を発着点に大阪城公園を折返す6区間、35キロのコースで三十校が参加して行われ、中大が、初の2時間突破の1時間59分57秒で初優勝した。

今までの最高は、3位だったが、これは、メンバーが六人程度だったので思うように練習が出来なかったのが、今年は、九人となりチームの結束力も充分満ち、この日のレースにのぞんだ勝利であった。

外国招待校は、昨年の優勝校のミラノ大をはじめ十校を数え、堂々たる優勝を飾った。



## 第22回全日本

### 大学対抗駅伝

- 十一月五日(日)熱田神宮
- 伊勢神宮内宮前
- 8区間108・9キロ
- 4位 中大 5時間29分5秒
- ①大東大 ②日大 ③山梨学院大

### 第66回 箱根駅伝

一月二日(火)8時往路、三日(水)8時スタート。15大学参加。前回は、健闘よく3位でした。今回は、大東大、順天堂大、日体大に伍して優勝争いをすると思われる。

正月は、テレビ生中継があるので、応援して下さい。

## SF大地震のボランティア

### 中大生25名を学長表彰

サンフランシスコ大地震の被害を知った中大生25名は、現地で日用品や食料品、衣料の配給、仕分けを手伝い、また一部学生は、国内に残って募金集めに活動した。

川添学長は、十一月二十七日、学内に於いて「国際親善に貢献した」として一人ずつ表彰した。

## 「ねじり鉢巻くんへ」

### 受験生を励ます

中大広報課は、資料請求した学生に学校案内と学内広報誌を送付しているが、希望者には、広報誌を定期的に送っている。しかし、それだけでは、味気ないので激励の言葉や、学校行事、受験勉強のアドバイスなどの手紙も一緒に添えて送り、受験前の学生にようこそばれている。

一九九〇年度の入試は、一部昼は、二月十三日(火)文学部を皮切りに、十九日(月)経済学部まで、また、二部夜は、三月一日(木)法学部から三日(土)経済学部、文学部まで実施される。受験生のご健闘を祈る。

## 高齢化進む

### 司法試験合格者

平成元年度の司法試験合格者五百六人を十一月一日発表された。競争率は、四十五・九倍と相変らずの激戦であった。合格者の平均年齢は二十八・九一歳。前年を〇・四七歳上回り、ここでも高齢化が進んでいる。また、女性も七十一人の合格者で、一挙に前年を十人増した。

司法試験合格者の上位校は、

- ①東大 ②早稲田大
- ③中央大 ④慶大
- ⑤京大 ⑥東大 ⑦早稲田大
- ⑧中央大 ⑨慶大 ⑩京大

## 中央大学学員会 三多摩地区 連絡協議会の沿革

今年度の幹事を引き受け、また、今回の文化講演会の主催ともなった中央大学学員会三多摩地区連絡協議会は、国立白門会の発足する前に、多摩地区には既に、八王子、立川・小金井・国分寺、調布・町田各分会の所属する三多摩支部が結成されていました。

昭和53年5月21日に創立した国立白門会は、中央大学学員会三多摩支部国立分会となりました。昭和54年5月、八王子分会が支部に昇格したのを皮切りに、立川、国立、町田も相次いで支部に独立し、また、日野市に日野支部、青梅市に青梅・西多摩支部が誕生したため、この多摩地区の連絡をより一層密にするため三多摩地区連絡協議会が設立され今日に至っております。また、連絡協議会は、春に観桜会、秋に親睦旅行などを企画実行しております。

### 原稿を募ります

広報部では、国立白門会ニュースの原稿を募集しています。白門会に關したニュースがございましたら大小に拘らずご寄稿、ご協力をお願いします。

# 活動報告

## 第五回ゴルフコンペ報告 関福男会員 初優勝!

平成元年十月十八日(水)  
第五回目のゴルフコンペを、相武ccにて開催しました。当日は絶好のゴルフ日和にめぐまれたものの、参加者は九人で、ややさみしいコンペ。成績も全般に低調の中、関会員

が見事ベスグロで初優勝に輝きました。  
本年のコンペは幹事の勝手で、春を休会としましたが、次回は、四月又は五月の日曜日を予定しますので、会員の皆様奮って御参加下さい。  
(成績)  
優勝 / 関 福男  
準優勝 / 菊地 茂  
三位 / 風間 健  
B B / 山口康雄

## 潮来水郷めぐり (春の親睦会)

六月十七日(日)会員及びご家族二十名の参加を得て、鹿島、香取神宮、潮来十二橋めぐりの親睦会が行われた。  
相憎の梅雨空ながら、雨の降る時は、走るマイクロボスの中であり、見学の際は、雨もあがり、こぼれ陽の出るタイミングで、あやめ満開の水郷、深い樹木に囲まれた壮麗な神宮に参詣し、楽しい一日の親睦会でした。



## らくがき帳

多摩川の川面に湯気が立っているように見えるころ、毎年、渡り鳥も我が家に帰って来たようにくつろいだ姿で浮んでいます。年々自然が壊われ地球も温度が上がりつつあると聞かされていても、やはり正月は来て、そして冬もやって来る。歳月は経ってみると急に懐古的になってしまふ今日この頃、母校卒業して数十年、仕事にかまけて忘れてしまった学生のころを思い出して、今号は特に、母校中央大学の近況を載せてみました。

## チヨット失礼! 高橋雅幸ご夫妻訪問

イ インタビュ  
雅 雅幸さん  
美 美紀さん

四月二十二日にめでたくゴールインされてから約八ヶ月まだまだ新婚ホヤホヤといった感じの高橋雅幸・美紀ご夫妻のお宅を訪問させていただきました。日曜日の昼下り、ほんわかと幸せそうな雅幸さんとジーンズ姿がさわやかな美紀さん。お二人だけの時間におじゃましては悪いかなと思ったりもしたのですが、心よく迎えて下さいました。

イ 出合いはいつですか?  
雅 結婚したちょうど一年前  
美 昨年四月頃、知り合いの方に紹介されました。  
イ プロポーズの言葉は?  
美 (雅幸さんに) 何て言ったか覚えてる?  
雅 うーん、覚えてないんだ



イ サイター  
美 条件をつけられたのは覚えてる。  
イ 公開できる条件ですか?  
雅 えーと、一つは思い出に残る言葉でプロポーズして欲しい。  
イ 二つめは?  
雅 言ってくれば思い出すんだけど...  
美 言って欲しい?  
雅 うん。  
美 今やっている勉強(心理療法)を続けたい。三つめは嘘をつくなら一生だまして欲しい。  
雅 あーそうか、そうか、はいはい...  
イ 結婚前までは雅幸さんのことを「高橋さん」とか「先生(税理士さんなので)」とか呼んでいましたか?  
美 た美紀さん「さすがに高橋さんとは言わなくなっただけど、先生とはまだ言います。」  
イ (影の声) 時々「あなた」と言っています。  
美 ミキって呼びます。結婚前みたいにミッキーちゃんとは言えないもん。

同僚と酒をくみ交わしながらの話は、仕事のこと、上旨のこと、それも尽きれば必ず「俺の学生のころは...」野球が強かった、上級試験に何人うかったかとの話題で花が咲き、盃が重なってゆく。しかし、今は、時代も変わりが母校も、マドンナ旋風が吹き、また、社会に貢献するという国立白門会のモットーを絵に書いたような学生が現われ意を強くさせられる。平成時代の第二幕を迎えます。国立白門会の発展を祈る次第。  
人目を細めながら「あれば旨かった」と言っていました。